

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

団体名: 飯田市

1. 事業の概要

事業名称	飯田市 地域との協働による日本語教育推進事業
事業の目的	これまでの日本語教室の活動から見てきた地域の実情と課題、ニーズなどに寄り添った日本語教室を開催し、外国人の自律促進と地域課題解消への一助とする。これまで築いてきた関係機関等との連携を強化するとともに、新たな連携先を発掘する。また、日本語支援者の育成に力を入れ、教室の自立を目指す。教室では、参加する学習者が、実践的な日本語を身につけることはもちろん、地域住民と共に日本文化や地域について学ぶことを通して、住民のひとりとしての自覚を持ち、社会へ踏み出していく足がかりとする。地域住民主体の“学習と交流の場”である公民館を拠点にした教室活動を展開することによって、外国人を含む地域住民が主体となる地域日本語教育推進のための体制整備を図る。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	飯田市には総人口102,614人に対し、2,141人(比率2.09%)の外国人住民が暮らしている(平成29年12月末現在)。外国人住民の9割は、中国、フィリピン、ブラジル出身者で、かつて満蒙開拓団として多くの人を送り出した歴史的背景から、帰国者に関係する中国出身者が特に多い。ブラジル人は、リーマンショック以降ピーク時の1/3に減少し、その後横ばいの状況だが、アジア諸国出身の日本人配偶者や学齢期前後の若者の来日、技能実習生の出入りにより、外国人住民数は常に微増減している。また、永住・定住・特別永住者・日本人の配偶者などを合わせた割合は、80.8%となっており、日本人住民と同様にライフステージに応じた悩みやニーズが出てきている。 市内の日本語教育活動については、公民館、民間団体、中国帰国者支援関係の団体が主催するボランティア日本語教室が4か所ある。どの教室も20年近く活動しているが、指導する日本語ボランティアの高齢化と後継者不足、指導力向上の機会の少なさといった課題があり、今後も安定的かつ継続的な実施を確保していくためには、中心となっていける人材を育てることが必要である。 また、教室数が多くないため、学習意欲はあっても、交代勤務や夜勤などの厳しい労働条件で、時間が合う教室がない、交通手段がないため通えないという外国人住民も多いほか、飯田市民にとっては馴染みのある公民館も、外国人住民にとっては敷居が高いという声も聞かれ、新しい学習者の参加を促す仕掛けが必要である。 多くの市民に外国人住民の実情や日本語教室の活動などが認識されていないことも課題のひとつで、日本語教育の体制整備を進める為には、引き続き裾野を広げる活動が必要である。 大学、日本語学校等の専門機関はないが、平成21年より厚労省の外国人就労・定着支援研修が開講されており、集中的・体系的に日本語を学ぶことができる唯一の機会となっている。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	◆日本語教室「わいわいサロンⅡ」県・松尾教室の実施 29年度に引き続き、市内に住む外国人成人を主な学習対象とした日本語教室「わいわいサロンⅡ」を県公民館、松尾公民館で各1期開催した。学習形態は対話型とし、これまでも協力いただいている日本語支援者のみなさんに引き続き支援していただいた。 学習内容は生活に必要な実践的な日本語とともに、日本の文化や地域の産業、生活情報などについて学べるものとした。地域の関係者や団体を教室へ迎えたり、現地へ出向いての研修を取り入れたりすることで、地域との連携をはかり、外国人が地域社会で自律し、歩み出していく足がかりとなった。また、地域社会の理解が深まり、多文化共生社会実現に向けた意識の醸成につながった。 松尾公民館教室については、初・中級の学習者を対象とし、読み書きを多めにとり入れた学習内容とした。定住者、永住者が増加し、学習者のニーズの多様化という現状にも対応できた。両教室で扱うテーマや教材は平成25年度から参加していただいている日本語支援者を中心に企画会議で検討した。 ◆わいわいカフェの実施 地域の公民館よりも外国人にとって身近な場所(外国人の居宅など)でのサロンの教室を開設した。学習形態の基本は対話型とするが、随時現場の声やニーズを拾いながら柔軟に進めることができた。学習者の母語が偏ることが予想され、例えばブラジル出身者であればその固有の課題に対する講師を招いて通訳を交えての講習などといったことも考えられる。学習テーマや開催する時間などは、会場の関係者や参加者も交えた企画会議を開催して決めていくようにしたい。これまで公民館の教室までは足が向かなかった人々も、買い物や食事のついでに日本語に触れることができ、新たな学習者の開拓につながる事が期待できる。 ◆丸山〇〇(まるまる)プロジェクトの実施 29年度に立ち上げた、丘の上教室の地区の一つである丸山地区。ここに居住する意欲のある支援者数名が「丸山〇〇(まるまる)プロジェクト」と題した活動を開始した。また一方で、地区内にある小中学校に外国人児童生徒が集中しつつある。丘の上教室後の活動の場を求めている支援者の方々と、多くの課題を抱える学校とをつなぐような活動行なった。支援者が直接学校へ入るのではなく、学校へ通う子どもとその保護者を対象としたイベントや講座を地域の関係者も交えた企画会議で検討し、開催地区の公民館等を会場に行うものとした。学習内容は、学校の課題だけでなく、地域のリソースもふんだんに使ったもので、親子で日本語や地域の暮らしを学ぶようなものとし、地域での体験活動を通して親子で地域に溶け込んだものとなった。 ◆学習成果発表会の実施 日本語教室の活動を地域に広く知ってもらうため、また日本語教室で学ぶ学習者がその成果を発表する場として、学習成果発表会を開催する。日本語スピーチ、ビデオ作品上映、作品展示など、学習の成果を発表する場があれば、学習者にはそれに向けてのモチベーションを高める効果が期待でき、地域には教室活動を周知できる機会にもつながる。 開催にあたっては、わいわいサロンの日本語支援者、外国人住民、市内日本語教室の関係者を含む実行委員会を組織し企画会議を実施した。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月(11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	春原 直美	佐久市市民活動サポートセンターセンター長
2	樫野 武司	竜丘公民館日本語教室代表
3	秦 文映	常盤台日本語教室代表
4	吉澤 裕美子	Hand in Hand和楽(日本語教室)代表
5	脇田 ルリコ	バイリンガル指導者
6	大澤 志那子	地域日本語教育コーディネーター
7	林 みどり	飯田市男女共同参画課多文化共生係長
8	秦野 高彦	飯田市公民館副館長
9	氏原 理恵子	飯田市公民館学習支援係長
10	稲垣 文子	飯田市公民館社会教育コーディネーター



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年 6月 2日 16時00分～18時00分	2時間	飯田市公民館	①春原直美、②榎野武司、 ③秦文映、④脇田ルリコ、 ⑤大澤志那子、⑥林みどり、 ⑦秦野高彦、⑧氏原理恵子、 ⑨稲垣文子	1. 市内日本語教室の近況:豊丘村でスタートアップ始まる/ベトナム研修生が増加/多国籍交流会の実施など 2. 文化庁委託事業:H29の報告とH30の採択通知と内容説明 3. 長野県内、国内の現況報告:多文化共生センターながの開設/地球人ネットワークin たつの開設・入管法の改正、「日本語教育推進基本法案」が年内に成立か。
2	平成30年 9月 15日 15時00分～17時00分	2時間	飯田市公民館	①春原直美、②秦文映、 ③脇田ルリコ、④大澤志那子、 ⑤林みどり、⑥秦野高彦、 ⑦氏原理恵子、⑧稲垣文子	1. 文化庁委託事業:各取組の進捗状況とH31事業について:各取組は概ね計画通りに実施、来年度は通年で実施する方向で検討、教室運営のためのスタッフチームを組成 2. 文化庁日本語大会:日本語教育支援事業の大幅増、特に体制づくり推進事業への予算が拡大 3. 長野県内、国内の現況報告:県内外国人が増加、多様化、定住化 H30・32 日本語学習支援者養成・研修カリキュラム開発事業の実施
3	平成31年1月19日 16時00分～18時00分	2時間	飯田市公民館	①春原直美、②秦文映、 ③脇田ルリコ、④大澤志那子 ⑤氏原理恵子⑥稲垣文子	1. 文化庁委託事業:平成30年度下半期の活動報告 2. 31年度は自治体国際化協会(CLAIR)の助成事業に応募。鼎教室は概ね通年で続行し、松尾教室は月1回日曜に開催。教室運営を担うスタッフチームを組織するために日本語コーディネーター、日本語支援者の育成事業を検討 3. 外国人材受入拡大のための新法案に伴う各省庁、県政の動きについて 4. 県下の他の都市の活動について 5. 飯田市内の他の日本語教室、国際交流団体の活動について
4	平成31年2月23日 15時00分～17時00分	2時間	飯田市公民館	①春原直美、②脇田ルリコ、 ③大澤志那子、④氏原理恵子、 ⑤稲垣文子	1. 文化庁委託事業:平成30年全事業についての報告 2. 31年度は自治体国際化協会(CLAIR)の助成事業に採択が内定。 3. 国政・入国管理法の改正に伴う、外国人材の受入れ・共生のための対応策について 4. 県の動き 交流員養成研修を実施(松本市、上田市)H31は安曇野市で予定。スタートアップ事業 豊丘村・白馬村 5. 中国人帰国者の傾聴活動 6. 市内各教室、国際交流団体の活動報告

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	◆日本語教室「わいわいサロンⅡ」鼎・松尾教室 以前から構築できている各機関(市役所、自治会、地域の伝統行事保存会、病院等)との連携を継続し、講師として教室に参加いただいたり、各機関からの要望なども学習テーマに反映させた。また地域で活躍する一般市民や団体、企業等、新たな分野との連携を図った。 一昨年度長野県が実施したバイリンガル日本語指導者育成の講座を受講した飯田地域の方々とも、学習内容の検討などにおいて協力体制を築いた。 ◆わいわいカフェ 各国のエスニックグループの代表者に集まってもらい、実施する場所、日時、学習内容や、対象者などカフェの体制全般について話し合った。当初はブラジル、中国、フィリピンのグループそれぞれに対してカフェ形式の日本語教室を実施する予定で、外国人が集まる教会や飲食店、地区の公民館などと連携して実施する予定であった。しかし、中国、ブラジルについては実施場所や時間帯が絞り込めず、結果的にフィリピンコミュニティに対してのみの教室となり、会場は学習者の自宅で行なった。 ◆丸山〇〇(まるまる)プロジェクト 教室の内容については既存の教室同様各機関などと連携して進めた。新しい教室のため、開催地区の公民館、自治会、まちづくり委員会、学校などとの連携を図り、地元への周知や理解を得た。地区住民の声を学習テーマや教室運営に反映させられるような連携体制を構築できた。 ◆学習成果発表会 飯田国際交流推進協会をはじめ、他の日本語教室、外国人住民の団体やキーパーソンらから実行委員会を組織し、企画・運営を行うことで、横の繋がりを構築することができた。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	指導者・コーディネーター等区分	事業における役割	氏名	所属
	地域日本語教育コーディネーター	全ての取組	大澤 志那子	飯田市公民館日本語教室「わいわいサロン」

3. 各取組の報告

＜取組1＞											
取組の名称		日本語教室「わいわいサロンⅡ」 県・松尾教室									
取組の目標		・飯田市で暮らす外国人と日本人が出会い、交流する場とする。学習者は実践的な日本語会話や読み書き、日本文化、生活情報などを学び、地域で自律して生活していくための足がかりを得る。日本語支援者は、活動を通しての自己実現の場とする。日本人、外国人双方にとって、教室が居場所となれるようにする。 ・数年にわたり教室に関わっている日本語支援者の中から、これまでの補助者としての経験を活かしつつ、今後はリーダーとして教室を引っ張っていく人材が出現するような研修を行う。 ・教室の運営にあたり、関係機関との連携を深め、地域での日本語教育の重要性を発信する。また、今後の当市での日本語教育の中心的存在となる。									
取組の内容		・外国人の成人を対象とした、実践的な日本語や日本文化、生活情報などについて学ぶ教室を開設した。 ・県地区、松尾地区で各1期(計2期)開催した。県地区は6月～7月(全8回)、松尾地区は9月～11月(全8回)。 ・対話型学習を中心とし、両地区とも初級レベルを対象とした。 ・学習テーマについては、日本語支援者で構成される企画会議で、企画・検討し、必要があれば教材等も作成した。 ・各教室の担当(ファシリテーター)は、これまで補助者を務めてきた日本語支援者の中で割り振って実施する。教室開講の前後に研修会を開催して指導力向上を図る。研修・実践を通して自ら教室活動を進めていく意識をもってもらった。 ・県地区では、「防災」「飯田の和菓子」など地域の文化や産業、生活情報を学びながら、生活に必要なとされる実践的な日本語の習得を目指した。 ・松尾地区では、取組2で新たに参加した学習者や連携先のニーズを反映させて、柔軟に内容を考えた。 ・学習テーマによっては、関係機関や地域で活躍する一般市民の方に教室に参加していただいたり、現場へ出向いての教室開催をしたりして、より実践的な日本語を学べるようにした。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		・行政の各機関との連携を継続、強化すると同時に、民間の連携先も開拓し、官民ともに協力できる体制をつくることができた。 ・学習者が住民のひとりであることを自覚し、地域を担う一員として社会へ踏み出す為の足がかりとなった。また、その分野の方々の意識改革にもつなげることができた。 ・自ら教室活動を進めていく力を持った日本語支援者を育てることで、教室運営の体制を充実させることができた。									
取組による日本語能力の向上		・日常生活に必要な場面での実践的な日本語会話の習得 ・地域社会で知っておかなければならない生活情報の習得 ・自らについて日本語で語るための表現力、文章作成力の養成									
参加対象者		日本語を学びたい成人					参加者数 (内 外国人数)		31人(30人)		
広報及び募集方法		・チラシ設置(市内地区公民館・図書館など公共施設・日本語教室・市内小中学校など) ・市ホームページ、フェイスブックへの掲載 ・学習者へチラシ送付、口コミ									
開催時間数		総時間35時間					内訳 2時間 × 15回 5時間 × 1回				
主な連携・協働先		県公民館、松尾公民館、市役所、バイリンガル日本語指導者、今田人形座、飯田水引協同組合、シニア大学、丸山石窯部、南信州観光公社、遠山郷観光協会									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
		9	1	6	3			2			9
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要			講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年6月4日 (月) 19:00~21:00	2	飯田市 県公民館	13	「いいだのいろいろ」第1回 いいだで買いの	グループに分かれて、自分の住んでいる地域でどんな買物をしているか、お買い得情報、情報の仕入れ方、良いお店、安いお店など情報交換を通じて買物をする際に必要な日本語を学習した。グループでまとめた内容を、全体で発表してもらった。			大澤志那子	日本語支援ボランティア7名 ①市瀬弘子 ②木下弘子 ③後藤信義 ④下岡恭子 ⑤向山敦子 ⑥山崎ルミ ⑦善本勝 おしゃべりサラダ(託児)2名 ①下平知子 ②塩沢紀子 公民館1名 ①稲垣文子(事務局) (季刊誌「信州りらく」記者1名・平松優子)	
2	平成30年6月11日 (月) 19:00~21:00	2	飯田市 県公民館	14	「いいだのいろいろ」第2回 今田人形	先に人形浄瑠璃の舞台を鑑賞し、今田人形の歴史について説明を受け、質疑応答をする。グループに分かれ、支援者が内容の解説をした。その後三味線と義太夫の生演奏。展示室でかしら、衣装、義太夫の唄本など見学。人形の操り体験。最後に感想をグループから一人ずつ発表してもらった。			大澤志那子	今田人形座4名 ①座長 沢柳太門 ②木下文子 ③木下雪比古 ④小川修 日本語支援ボランティア8名 ①市瀬弘子 ②木下弘子 ③後藤信義 ④下岡恭子 ⑤山崎ルミ ⑥善本勝 ⑦大塚寛子 ⑧小沢洋夫 公民館1名 ①稲垣文子(事務局)	
3	平成30年6月18日 (月) 19:00~21:00	2	飯田市 県公民館	12	「いいだのいろいろ」第3回 絵手紙教室	先に絵手紙という言葉の意味や見本を見てもらい、先生が書き方を説明した後、グループに分かれて「トマト」「きゅうり」を題材に絵手紙を一人2～3枚描いた。その後ペンであいさつなどを日本語で書いた。けしごむハンコを作成し、ひらがなの名前のハンコを一つずつ作成し、捺印して完成。			大澤志那子	絵手紙講師 鈴木伸治 日本語支援ボランティア5名 ①木下弘子 ②下岡恭子 ③山崎ルミ ④大塚寛子 ⑤小沢洋夫 おしゃべりサラダ(託児)2名 ①下平知子 ②毛利和子 公民館1名 ①稲垣文子(事務局)	
4	平成30年6月25日 (月) 19:00~21:00	2	飯田市 県公民館	6	「いいだのいろいろ」第4回 手続き教室	市役所できとれる書類について説明した後、自分の住所が漢字で書けるよう練習。住民票の申請用紙に書いてある用語について学習。実際に住民票をとる申請用紙に記入してもらい、市民課に対応してもらう。また市民課の方に、証明書の交付の申請に来られる際の注意点について説明してもらった。			大澤志那子	飯田市役所市民課職員1名 松島橋 日本語支援ボランティア5名 ①木下弘子 ②下岡恭子 ③山崎ルミ ④大塚寛子 ⑤小沢洋夫 公民館1名 ①稲垣文子(事務局)	
5	平成30年7月2日 (月) 19:00~21:00	2	飯田市 県公民館	6	「いいだのいろいろ」第5回 七夕教室	七夕の由来や歴史について説明。ペープサートを使って七夕の物語を説明。願い事を書くときの日本語について勉強し、実際に短冊に書いてみる。七夕飾りの意味や作り方を説明し、実際に作る。飾りつけをした後、「たなばた」の唄の意味を説明し、みんなで唄う。			大澤志那子 下岡恭子	日本語支援ボランティア6名 ①市瀬弘子 ②木下弘子 ③後藤信義 ④山崎ルミ ⑤善本勝 ⑥小沢洋夫 地域日本語コーディネーター1名 下岡恭子 公民館1名 ①稲垣文子(事務局)	

6	平成30年7月9日 (月) 19:00~21:00	2	飯田市 鼎公民館	8	「いいだのいろ ろ」第6回 水引教室	飯田水引協同組合さんより、水引の歴史や水引の作り方、水引という言葉の意味、金封ののし袋にある水引の意味について説明してもらう。その後淡路結びの作り方を教えてもらい、各自で練習した後、作品づくり。キーホルダーやしおりを作る。最後は学習者から感想を言ってもらった。	大澤志那 子 木下弘子	飯田水引協同組合3名_①理事長 岩原克典、他2名 日本語支援ボランティア4名_①市瀬弘子 ②後藤信義③小沢洋夫 公民館1名_①稲垣文子(事務局)
7	平成30年7月16日 (月・祝) 10:00~15:00	5	飯田市 鼎公民館	6	「いいだのいろ ろ」第7回 研修旅行	遠山郷へ1日研修旅行～飯田市役所を出発⇒下栗の里⇒まつり伝承館天伯⇒かぐらの湯⇒観音霊水⇒龍淵寺⇒市役所到着 天伯では神主さんから霜月祭りや遠山郷の説明をDVDなどを使って説明してもらった。龍淵寺では住職から遠山の歴史について説明してもらった	大澤志那 子 小沢洋夫	日本語支援ボランティア7名_①木下弘子 ②後藤信義③下岡恭子 地域日本語 コーディネーター1名 小沢洋夫 公民館2名_①氏原理恵子、②稲垣文子 (事務局)
8	平成30年7月23日 (月) 19:00~21:00	2	飯田市 鼎公民館	6	「いいだのいろ ろ」第8回 郷土料理教室	飯田の料理について勉強した。「塩いか」「いなご」「はちのこ」を昔から食べられていた地理的背景について学び、塩いかを使った料理と五平餅の作り方を学んだ。グループに分かれて飯田の料理についての感想や自国の料理について話し合う。その後持ち寄った各国の料理をみんなでいただいた。	大澤志那 子	日本語支援ボランティア7名_①市瀬弘子 ②木下弘子③後藤信義④下岡恭子 ⑤向山敦子⑥善本勝⑦小沢洋夫 公民館1名_①稲垣文子(事務局)
9	平成30年9月19日 (水) 19:00~21:00	2	飯田市 松尾公民館	13	「DST_私のふるさと」 第1回 作品のテーマ決 め	新しい参加者が4名(中国1名、フィリピン3名)いたので自己紹介ゲームをした。過去の作品を上映し、今年のテーマ「ふるさと」について話す。その後支援者と学習者がペアになって、マインドマップ作り、支援者と話をしながら学習者一人ひとりの心にある「ふるさと」を用紙に書いた。	大澤志那 子	日本語支援ボランティア5名_①市瀬弘子 ②小沢洋夫③下岡恭子④善本勝⑤ 横山檀里 おしゃべりサラダ(託児)2名_①稲垣奈保 美、②下平知子 公民館1名_①稲垣文子(事務局)
10	平成30年9月26日 (水) 19:00~21:00	2	飯田市 松尾公民館	14	「DST_私のふるさと」 第2回 作品のテーマ決 めと スクリプト作成	まずは自己紹介ゲーム(名前、出身地、好きな飲み物)をした。再度過去の作品を上映した。学習者2名に支援者1名の対応で、スマホに保存してある「ふるさと」の写真を見ながら、話したり、文章を書いたりした。誰に「ふるさと」について話したいかも考えながら、文章を書くことを心掛けた。	大澤志那 子	日本語支援ボランティア5名_①市瀬弘子 ②小沢洋夫③木下弘子④下岡恭子 ⑤善本勝 おしゃべりサラダ(託児)2名_①稲垣奈保 美、②下平知子 公民館1名_①稲垣文子(事務局)
11	平成30年10月3日 (水) 19:00~21:00	2	飯田市 松尾公民館	12	「DST_私のふるさと」 第3回 スクリプト作成	自己紹介ゲーム(好きな果物)その後しりとりにゲーム(食べ物)をした。支援者1名につき2名の学習者が対応するかたちで、ふるさとについてマインドマップ作成、スクリプト作成に入る学習者もいた。	大澤志那 子	日本語支援ボランティア5名_①小沢洋夫 ②木下弘子③下岡恭子④善本勝⑤ 横山檀里 おしゃべりサラダ(託児)2名_①稲垣奈保 美、②下平知子 公民館1名_①稲垣文子(事務局)
12	平成30年10月10日 (水) 19:00~21:00	2	飯田市 松尾公民館	6	「DST_私のふるさと」 第4回 スクリプト作成	自己紹介ゲーム(連想ゲーム)をした。学習者が少なかったため、支援者1人に学習者一人に対応できた。原稿がほぼ完成した学習者もいれば、まだ文章がまとまっていない学習者もいるが、全員どんな内容のストーリーにするかは、決まってきた。写真やデータの送付先を知らせた。	大澤志那 子	日本語支援ボランティア5名_①市瀬弘子 ②小沢洋夫③下岡恭子④善本勝⑤ 横山檀里 おしゃべりサラダ(託児)2名_①宮下米 子、②下平知子 公民館1名_①稲垣文子(事務局)
13	平成30年10月24日 (水) 19:00~21:00	2	飯田市 松尾公民館	6	「DST_私のふるさと」 第5回 スクリプト作成と 発表	長野県国際課から2名、松本市から1名、飯田女子短大准教授の合計4名のゲストがあった。自己紹介ゲーム(好きなスポーツ)をした。学習者が多かったため、松本市からの日本語コーディネーターさんにも入ってもらい、学習者2名に対し1名の支援者の体制でスクリプト作成をした。できた文章をみんなの前で発表してもらい、次回からのナレーション練習につなげる。	大澤志那 子	日本語支援ボランティア5名_①市瀬弘子 ②小沢洋夫③下岡恭子④善本勝⑤ 菱田博之 おしゃべりサラダ(託児)2名_①宮下米 子、②稲垣奈保美 公民館1名_①稲垣文子(事務局)
14	平成30年10月31日 (水) 19:00~21:00	2	飯田市 松尾公民館	8	「DST_私のふるさと」 第6回 スクリプト作成と 録音	手遊びゲーム(アルプス一万尺など)をやり、各国の手遊びゲームをした(頭、型、肘、つま先ゲーム、大きなクリの木の下で)。その後1名の支援者に1～2名の学習者がついて原稿作成。これまでにできた原稿の追加、修正。早い人は録音を始めた。	大澤志那 子	日本語支援ボランティア4名_①小沢洋夫 ②下岡恭子③善本勝④菱田博之 おしゃべりサラダ(託児)2名_①宮下米 子、②下平知子 公民館1名_①稲垣文子(事務局)
15	平成30年11月7日 (水) 19:00~21:00	2	飯田市 松尾公民館	6	「DST_私のふるさと」 第7回 スクリプト作成と 録音	いよいよ録音に入る。その前に、日本語の原稿を配り、句読点や発音を気を付けながら、原稿を読む練習をした。その後支援者と学習者でペアリングをし、原稿の仕上げに入る。原稿が完成した人から録音を開始。	大澤志那 子	日本語支援ボランティア5名_①市瀬弘子 ②小沢洋夫③木下弘子④下岡恭子 ⑤善本勝 おしゃべりサラダ(託児)2名_①稲垣奈保 美、②下平知子 公民館1名_①稲垣文子(事務局)
16	平成30年11月14日 (水) 19:00~21:00	2	飯田市 松尾公民館	6	「DST_私のふるさと」 第8回 録音	最終回となり、録音が終わっていない学習者は録音を実施。だいたい2テイクくらいで完了した。録音が済んだ学習者は、持寄りの軽食を食べながら、この講座の振り返りを行なった。	大澤志那 子	日本語支援ボランティア6名_①市瀬弘子 ②小沢洋夫③木下弘子④下岡恭子 ⑤善本勝⑥菱田博之 おしゃべりサラダ(託児)2名_①稲垣奈保 美、②下平知子 公民館1名_①稲垣文子(事務局)

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第6回平成30年7月9日(月)19:00～21:00「いいだのいろいろ第6回」水引教室 鼎公民館】

飯田水引協同組合の3名を講師に迎えて、飯田の伝統工芸である水引で小物作りを体験。まずは水引の歴史や、水引の作り方、水引の用途についてコーディネーターから話を聞く。その後、協同組合の人から基本的な結び方の「淡路結び」を習う。いくつか作れるようになったところで、「淡路結び」をアレンジした「梅」「しおり」や、留め金具を使ってキーホルダーを作った。一人に3～5個作っていたようだ。学習者は、初めて水引を見た人、触った人が多く、また水引作品を始めて作った人がほとんどであったが、みんな基本の「淡路結び」を作ることが出来て、様々な色の水引を使って、小物作りに挑戦していた。学習者は「紙でできているのに丈夫なのに驚いた」「いろんな色があり、組み合わせによって感じがかわるので楽しい」「今度はもっと大きな作品が作ってみたい」など大変好評だった。また冒頭で、飯田市が水引の日本最大の生産地であることや、のしぶくろに使用する水引の「花結び」「結び切り」「あわじ結び」の意味について、興味深きであった。外国人の生活習慣にはあまり縁がないかもしれない水引だが、飯田の主要工芸品である水引について学び、興味を持ってもらえたことは良かったと思う。



○取組事例②

【第15回 平成30年11月7日(水)19:00～21:00「DST作り～わたしのふるさと～第7回」松尾教室】

講座も終盤となり、支援者のサポートにより学習者は原稿が完成しつつある。原稿ができた学習者はみんなの前で発表したり、ナレーションの練習を行なった。原稿作成は、自分の故郷の美しさ、故郷に居る友達や家族への思い、あるいは飯田を第二のふるさととして、飯田への思いをつづっていた。ナレーションについては、単語のイントネーションや特に小さい「っ」や「しゅ」「し」「せ」などサ行が続く言葉に苦戦しているようだった。また文章の区切る場所や「てにおは」の使い方を確認しながら練習をしていた。練習が終わった学習者は録音にとりかかった。録音では、2～3文で区切り、2～3テイク録音をした。録音が進むにつれて、学習者は緊張がほぐれ、慣れてきた様子で、スムーズにナレーションが進んだ。



(2) 目標の達成状況・成果

・前期の鼎教室では、学習者からは「いろいろなところに行けて良かった」「飯田に長く住んでいても知らないことがあり、それを知れてよかった」といった感想をもらえた。毎回講座内容を変えたことでバラエティに富んだ講座となった。また飯田の伝統芸能や郷土産業、市役所職員などの地域の人々との交流もでき、文化伝承館や遠山郷への研修旅行など、飯田に住んでいても行く機会がなかった場所へ案内できた。また、のしぶくろの使い方、七夕かざりの由来、市役所での手続きの方法など、飯田で豊かに暮らすための情報交換や学びを提供できたのが良かった。

・後期の松尾教室では、昨年から引き続きデジタルフォトムービー製作を行なった。企画委員会で今年のテーマを「わたしのふるさと」とし、飯田の人に伝えたい学習者の祖国について、あるいは祖国の家族に伝えたい飯田についての作品にすることになった。平均1名の支援者が2名の学習者を対応することとなった。最初にテーマを決めて、伝えたいふるさとの事を話し合い、マインドマップに書いていった。次に原稿を作成し、出来た文章を教室で発表することで、ナレーションの練習とした。できた人からナレーションの録音を開始した。事務局の方でムービーメーカーを使ってフォトムービーを作成した。作品を完成させたのは、受講者のほぼ全員の10名で、祖国についての作品が8名、飯田についての作品が2名となった。それぞれ、ふるさとに住んでいる家族や兄弟、友人への思い、ふるさとの観光地や景勝地、あるいは人々の食べ物や生活についての紹介があった。また祖国の農業に貢献した日本人について紹介してくれた作品もあった。そのムービーは学習成果発表会で上映された。

(3) 今後の改善点について

前半の鼎教室では、バラエティ豊かな講座内容となり、参加者からも大変好評であった。飯田についてより深く知ることが出来たことで、地域の人とのつながりができ、地域の様々な場所を紹介できた。まだ紹介しきれていない地域の文化や歴史、生活に役立つ情報を提供しながら、日本語教育を今後もすすめていきたい。後半の松尾教室のフォトムービー製作では、今年は10作品、国も中国、フィリピン、ブラジル、日本、ベトナムと国際色豊かであった。しかし参加してくれた多くの学習者に対し支援者が少なく、マンツーマンの対話形式では支援者の負担が大きかったと感じる。また日本語コーディネーターの大澤志那子さんを中心に講座が展開されたが、他の町村、他事業による日本語教室の指導もあり多忙を極めている。来年度は新規の支援者を増やし、支援者が日本語コーディネーターにレベルアップできるような研修を充実させ、日本語教育の人材育成も実施したい。

＜取組2＞											
取組の名称		わいわいカフェ									
取組の目標		・公民館以外の場で日本語教室を開設し、学習者層の拡大をはかる。これまで教室に参加したことがない外国人にも、その存在や活動内容などを周知する。 ・外国人と日本人が出会い、交流する場とする。 ・学習者は日本人と日本語で話す機会を持ち、実践的に日本語会話や読み書き、日本文化、生活情報などを学び、地域で自律して生活していく。 ・教室の開催、運営にあたり、会場となる施設や店舗との連携をはかり、地域で日本語教育の重要性を発信していく拠点にする。									
取組の内容		・外国人の成人を対象とし、8月～12月(全4回程度)実施を予定していたが、実際には全16回実施した。 ・日本語支援者が少人数(2～4人)でチームをつくり、コーディネーターとともに、担当会場の運営をすることができた。 ・ブラジル人コミュニティ、フィリピン人コミュニティ、中国人コミュニティそれぞれに、気軽に立ち寄れるカフェ的な教室を開催する予定だったが、立ち寄れる場所や時間帯の選定が定まらず、今年度はフィリピン人コミュニティに対する講座のみとなった。 ・学習テーマについても、より学習者のニーズに寄り添う形で行なった。外部の専門家を招くことはなかった。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		・教室開設場所を公民館以外にすることで、新たな学習者層へのアプローチや、日本語教室の周知ができた。 ・外国人が多く住む学習者の自宅で開催した。身近な場所での教室に参加することを最初の一步として、次に公民館や市内で開催されている日本語教室へとつながっていく流れを構築していくことができた。 ・外国人が集まる施設や店舗等と連携するには至らなかったが、今後地域の店舗とも連携して、日本語教育の重要性を発信していく拠点としたい。									
取組による日本語能力の向上		・日常生活に必要な場面での実践的な日本語会話を習得できた。 ・地域社会で知っておかなければならない生活情報を獲得できた。 ・個々のニーズに応じた日本語力、生活情報などを獲得できた。									
参加対象者		日本語を学びたい成人					参加者数 (内 外国人数)		9人(6人)		
広報及び募集方法		・チラシ配布(外国人集住地区・市内地区公民館・図書館・日本語教室・市内小中学校 等) ・組合回覧 ・市広報・新聞・地方情報誌への掲載 ・インターネット(市役所HP、Facebook) ・学習者による口コミ									
開催時間数		総時間32時間					内訳 2時間 × 16回				
主な連携・協働先		外国人住民が集まる施設、飲食店、教会、バイリンガル日本語指導者									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
									6	3	
	※該当する場合のみ										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要			講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年7月29日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島アパート	4	・学習の進め方について ・日本語会話基礎	初回ということで、ニーズ確認、所有教材の確認などをして、今後の学習の進め方について話した。 『みんなの日本語初級Ⅰ』1課と2課学習。名詞文、自己紹介、[Nも]、質問と答え、これ／それ／あれ、このN、[の]([所有、内容])簡単な架空名刺を書き、自己紹介の練習。それぞれの所有物で「だれの?」「わたしの」など口頭練習。			大澤志那子		
2	平成30年8月5日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島アパート	4	日本語会話基礎、漢字	『みんなの日本語』3課と4課。ここ／そこ／あそこ／どこ、Vます/Vません/Vました/Vませんでした、～から～まで。文型確認後、口頭でQA練習。本冊練習BとCから抜粋したもの。その他、語彙カードをひき、口頭作文。口頭練習はまだ慣れていない様子だがみなさんとても熱心に、QAなども楽しくできる。漢字読みテスト(L3・L4)も実施。			大澤志那子		
3	平成30年8月19日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島アパート	4	日本語会話基礎、漢字	『みんなの日本語Ⅰ』5課 [場所]へ 行きます・来ます、[交通手段]で、[人]と。交通手段を絵カードで示したが、ほとんど知っていた。練習B、Cで口頭練習。みんなを1回2課進めるのは無理がある。1課ずつとする。漢字読みテスト(L5、L6)も実施。			大澤志那子		
4	平成30年9月2日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島アパート	4	日本語会話基礎、漢字	『みんなの日本語Ⅰ』6課 [場所]で V、Vませんか、[目的語]を V、それから～。文型導入後、練習B、Cで口頭変換練習。勧誘の「Vませんか」はあまり使わないからか、初めて聞いた感が大。漢字読みテスト(L7、L8)を実施。			大澤志那子		
5	平成30年9月16日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島アパート	3	日本語会話基礎、漢字	クリスティーナさんが頭痛で欠席のため学習者3人。下岡さんの紹介と学習者の自己紹介から始めた。その後『みんなの日本語Ⅰ』7課 [手段]で V、あげます／もらいます、かします／かります。漢字読みテスト(L9、L10)実施。途中担当を分けて個別指導もできた。			大澤志那子 下岡恭子		
6	平成30年9月30日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島アパート	4	日本語会話基礎	『みんなの日本語Ⅰ』8課 形容詞文、どうですか、どんなN。食べ物の好き嫌いや仕事について話が盛り上がった。形容詞は一度学習しているため覚えているものも多いが、使っていないため慣れが必要。文型練習帳から宿題を出した。			下岡恭子		
7	平成30年10月7日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島アパート	4	日本語会話基礎、漢字	『みんなの日本語Ⅰ』10課 あります／います、位置詞。アパートの中を歩いたりしながら、あります／いますの練習。みなさんフィリピンに家族を残してきていて、さみしいとのことだった。漢字読みテスト(L11、L1)を実施。			下岡恭子		
8	平成30年10月21日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島アパート	4	日本語会話基礎、漢字	『みんなの日本語Ⅰ』11課 助数詞、どのくらい、～に～回。漢字読みテスト(L2、L3) 助数詞はほとんどはじめてだったよう。文法解説の巻末の表をコピーして渡した。買い物のゲームで、「りんごを5個ください」「ふくろは何枚いらいますか」など練習した。			横山燈里		
9	平成30年10月28日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島アパート	4	日本語会話基礎	『みんなの日本語Ⅰ』12課 形容詞過去、比較表現(～より、～のほうが、～の中でいちばん)。フィリピンと日本の比較、JさんとMさんの比較、4人の中でだれがいちばんなど、例文をたくさんつくった。Lさんの「日本はフィリピンよりsafeです」にみなさん大きくうなずいていた。			下岡恭子		

10	平成30年11月4日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島ア パート	4	日本語会話基礎、漢字	『みん日Ⅰ』13課 「ほしい、Vたい。漢字読みテスト(L4、L5)。～たいの表現が使えるとうれしそう。行きたいところ、食べたい物、会いたい人など表をつくってお互いにインタビュー活動。行きたいところは全員フィリピンだった。13課の内容は全部できなかったため、次回に。	横山燈里	
11	平成30年11月11日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島ア パート	4	日本語会話基礎	『みん日Ⅰ』13課 [場所]へ[Vマス]に いきます、どこか／なにか。「コンビニへお菓子を買いにいきます」など応用がなかなか難しかったが、よく使う表現ではあるので、慣れて使えるようになるという。	横山燈里	
12	平成30年11月18日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島ア パート	4	日本語会話基礎、漢字	『みん日Ⅰ』14課 動詞テ形、Vて ください。漢字読みテスト(L6、L7)。動詞のグループ分けの説明に時間がかかった。一度学習はしたようだが、しっかり理解していなかったよう。「そういうことだったのか」という反応だった。テ形の歌(キラキラ星のメロディー)も紹介。恥ずかしそうにしながらも歌ってくれた。	下岡恭子	
13	平成30年11月26日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島ア パート	3	日本語会話基礎	『みん日Ⅰ』14課・15課 動詞テ形復習、[Vマス]ましょうか、[Vテ]もいいです、[Vテ]はいけません。テ形の歌をみなさんよく覚えていた。公共の場や職場でのルールについて、～でもいいです、～てはいけませんを使って話した。	大澤志那子	
14	平成30年12月2日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島ア パート	4	日本語会話基礎、漢字	『みん日Ⅰ』15課 [Vテ]います(特別な言い方、仕事)、知りません。漢字読みテスト(L8、L9)。知っています、住んでいます、結婚していますなど、～ていますを慣例で使用する言い方について学習。知っていますは感覚として理解することが難しかったよう。「勉強を知っています」などとなってしまった。受講者の一人Jさんは、結婚しているそう。	横山燈里	
15	平成30年12月16日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島ア パート	4	日本語会話基礎	『みん日Ⅰ』16課 ～て、～て、形容詞＋形容詞(やさしくてかわいい)、名詞／ナ形容詞＋形容詞(しんせつでおもしろい)。形容詞をつなげるところは、おもしろいモンスターの絵を描いてそれを説明する練習。今回は最後になるため、やりたいことを話した。	横山燈里	
16	平成30年12月23日 (日) 14:00～16:00	2	飯田市松尾 中島ア パート	4	日本語会話基礎、まとめ、交流会	『みん日Ⅰ』16課 [Vテ]からV、NはNがA。16課の残りの項目を学習してから、これまでの学習の振り返りをした。楽しく学習できた、職場でも日本人と話すようになった、もっとやりたかった、などの感想があった。ジュースやお菓子も用意し、お互いの健康をたえた。	大澤志那子	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回授業平成30年8月5日(日)】支援者がアパートにつくと、学習者4人で会場を準備して待っていてくれた。エアコンもよくきいていた。あいさつをして授業開始。日付や本日の体調などについて簡単に話したあと、前の回に出した宿題(みんなの日本語、文型練習帳1課と2課)のチェックから。全員よくやってあった。ミスが少ない。チェックしている間はそれぞれ漢字の復習をしてもらっていたが、4人分をチェックするのに時間がかかりすぎてしまうので、改善の必要ありと感じた。同じく宿題にしてあった範囲の漢字よみテスト。テキストの練習問題文を一文ずつ読んでもらう。ミスは少ないが、忘れてる字もあった。文の意味も確認。次に、ここ／そこ／あそこ／どこ 導入。言葉としては全員知っていた。『みんなの日本語Ⅰ』本冊の練習Bで(もの、ひと)はどこですか、など口頭練習。アパート内についてもイレ、キッチンなどがどこか話した。ここまでで約10分休憩。ジュースを出してくれた。休憩後、4課の～ます／～ません／～ました／～ませんでした について導入。きのうやったこと、起きる時間寝る時間などについてQA練習。お互いの生活習慣を知っているの、で、「もっと遅い！」などと突っ込みが入りおもしろい。仕事の時間で[～から～まで]についても話した。基本的に全員仕事ばかりの毎日、休みは日曜日しかなく、買い物などでおわってしまうようだ。最後は語彙カードを1枚引いて、その語を使っての口頭作文。時刻に注意しながらいろいろな文を作った。宿題として、文型練習帳14、15ページのコピーを渡し、終了。



○取組事例②

【第10回授業11月4日(日)】2時より少し早く支援者が到着したため、みなさんあわてて準備をしてくれ、時間通り授業開始。4人も元気だった。前時の比較表現の復習から。「フィリピンは日本より暑い。日本はフィリピンよりすごく寒い。」などずらずら例文が出た。続いて漢字の読みテスト。Jさん、Mさんはつまづきが多い。「漢字むずかし〜。」とよく口にするようになった。読み方が複数あるものが特に覚えられないようだ。次に、「ほしい」の導入。理解は速かった。簡単に練習してから「～たい」の導入。2種類のリンゴの写真を見せて、どちらが食べたいか選んでもらった。飯田の葉とらずリンゴとスーパーの写真を比べて、前時の比較も使いつつ、おいしい飯田のリンゴを紹介した。みなさん、飯田のリンゴはおいしいと言ってくれた。りんご並木の存在も知っていた。ここで休憩10分。休憩後、「～たい」の接続を確認して、動詞の変換練習。単純な練習はスムーズにできる。その後練習Cで会話のQA練習をした。まとめの活動として、今いちばん 欲しいもの/行きたいところ/食べたい物/ ききあうインタビュー活動。立ち歩いて全員が3人にきき、答えをシートに記入した。その後結果を口頭で発表してもらったが、「いま、何が一番食べたいですか」と質問したものを、「○○さんは、今一番口が食べたいです。」と形を変えて発表することは少し難しかったが、みなさんががんばっていた。今一番行きたいところは全員フィリピンだった。漢字テキストの宿題部分をざっと確認して終了。

(2) 目標の達成状況・成果

・今回新しくカフェ的な教室を開設するにあたり、ブラジル、フィリピン、中国出身でそれぞれコミュニティで中心的存在となっている方々に相談し、ニーズや開設場所の可能性を探った。予想通り細かい事情や多様なニーズをうかがうことができ、既存の教室だけでは充分でない状況が判明したカタチとなった。その中で学習意欲がはっきりしていたフィリピン人が集まるある会社の寮で始められたことは、学習者のニーズに寄り添った新しい場所での教室開設という目標が達成できたといえる。学習内容は事前に何度かキーパーソンや学習者本人も交えて打ち合わせをし、これまでの学習状況や生活などについても把握した上で臨むことができた。
・指導にあたった支援者は3人で、都合に合わせて担当日を決め交替しながら行った。学習内容や学習者の様子などは都度記録しメールで共有するなど、少人数チームでの活動ができた。

(3) 今後の改善点について

・当初は2～3か所でのカフェ的教室の開設を予定していたが、中島アパートでの教室のみで、他会場の開設には至らなかった。コーディネーターの手が回らなかったのが大きな要因だった。支援者による少人数チームを先に編成し、その方たちに任せると、組織的な取り組み方の改善が必要だろう。
・今回の中島アパートの学習は、学習者のニーズには寄り添えたが、誰もが気軽に立ち寄れるような内容とはならなかった。そのため、アパートには9人のフィリピン人が住んでいたが、最初に希望が出た4名以外の方々までひろげることができなかった。当初の目的にたかえり、途中で学習内容や開催方法などの見直しをするべきであった。

＜取組3＞										
取組の名称		丸山〇〇(まるまる)プロジェクト								
取組の目標		・地域に居住する日本人・外国人が出会い、交流する場とし、人々がいきいきと暮らしていける住みやすい地域を目指す。 ・29年度から活動を始めた日本語支援者のうち、丸山地区在住の方々がさらに活動していける拠点とする。								
取組の内容		・丸山地区にある丸山公民館を主会場に、日本語教室を中心とした住民の交流の場を開設することができた。 ・教室は5月～12月(全8回)開催し、対象は主に地区内の外国人親子と日本人とする予定であったが、7月に1回実施したのみで、継続的な開催は出来なかった。 ・運営は、丸山地区の日本語支援者でつくる団体「丸山〇〇(まるまる)プロジェクト」が中心となって進めることができた。 ・地区内で外国人児童生徒も多く通う小中学校や、地区住民と話し合う機会は得ることが出来た。 ・学習テーマによっては、地域の人的・環境的リソースを活用した活動にすることができ、様々な分野の方に参加してもらうことができた。								
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備		・同じ地区に住む外国人と日本人が協力し合って教室活動を展開することで、地区の住民による地域づくりの体制を構築することができた。 ・地区内で外国人住民が日本語を学ぶ場所を整備することができた。 ・学校や地区内の関係機関と連携した内容を取り入れ、関係を構築することができた。								
取組による日本語能力の向上		・日常生活に必要な場面での実践的な日本語会話の習得することができた。 ・地域社会で知っておかなければならない生活情報の獲得することができた。								
参加対象者		日本語を学びたい親子					参加者数 (内 外国人数)		30人(10人)	
広報及び募集方法		・チラシ配布(外国人集住地区・市内地区公民館・図書館・日本語教室・市内小中学校 等) ・組合回覧 ・市広報・新聞・地方情報誌への掲載 ・インターネット(市役所HP、Facebook) ・学習者による口コミ								
開催時間数		総時間 3時間			内訳 3時間 × 1回					
主な連携・協働先		市内地区公民館、市役所、医療機関、バイリンガル日本語指導者、飯田市民 等								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	2		4							20
※該当する場合のみ										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年7月1日 (日) 10:00～13:00	3	丸山公民館	26	どきどき！親子教室	第1弾として丸山地区の外国人と日本人親子が知り合いになるきっかけづくりとして、丸山公民館の丸山石窯部の方のサポートで石窯ピザづくり体験と、田中宗吉商店さんによる水引講座で、水引の歴史や用途を学び、しおりや小物作り体験をした。	田中宗吉商店、丸山石窯部大澤志那子	田中宗吉商店1名 ①田中秀明 丸山石窯部4名 ①中田早苗、②伊藤晃、③山田隆、④武井玲子日本語支援ボランティア3名 ①大蔵隆、②木内かず子、③矢澤和子 公民館4名 ①西脇充、②永田麻美子、③氏原理恵子、④稲垣文子(事務局)		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 30年7月1日】
当日朝8時から丸山石窯部の方は仕込み(窯の火入れとピザの種作り)に取り掛かる。参加者が集合したら、自己紹介ゲームとしてボール投げゲームをした。その後田中宗吉商店の田中さんによる水引についての説明と小さな作品を作った。あわじ結びを習いキーホルダー、しおり、携帯ストラップなどを作った。丸山石窯部のみなさんが用意して下さった生地を一人一枚ずつを上げてトッピングをした。その後石窯に順次入れていきピザがあつという間に焼けた。その後サラダと焼きたてのフォカッチャも提供され、楽しい懇談会となった。食事の後はゲームをしたり、丸山太鼓を丸山地区の日本人と外国人が演奏するなど交流を図ることが出来た。丸山石窯部のみなさんからは「外国人との共生のお手伝いができてうれしい」「子どもたちに喜んでもらえて嬉しかった」「またやりましょう!」という声をいただいた。
また、この「どきどき！親子体験教室第2弾」として8月18～19日に大平宿1泊2日キャンプを予定していた。第1弾で初顔合わせをした外国人親子と日本人親子が、今度は古い日本家屋に宿泊し、かまどでご飯を炊いたり、風呂を沸かししたり、いろいろで食事を作るなどの体験を共有しながら、子育てや日本で暮らす上での悩みや情報交換など様々な話をし、相互理解を深めることを目的としていた。7月12日大平宿へ下見、7月18日と8月1日に、参加する外国人の代表者とボランティアスタッフと打合せを行なったが、悪天候のため現地までのアクセス道路が通行不能になる恐れがあったため、やむなく実施を断念した。



(2) 目標の達成状況・成果

7月1日の第1弾では、地区在住の外国人親子を対象としたイベントであったが、同じ日に外国人コミュニティの大きな集会があったため、参加者が集まらなかった。企画会議には公民館と日本語ボランティア、日本語コーディネーターが参加したが、主なターゲットとなる外国人の代表者にも入ってもらえなかったため、日程、場所、内容など擦り合わせができていなかった。また予定していた第2弾の泊り体験が悪天候のため断念することとなったが、来年度は実現できるようにしたい。
この取組が契機となって、丸山地区の外国人小中学生対象に、学習会を開催することとなり、日本語ボランティアが学習支援活動を行なった。この取組についてはアンケート実施が出来なかった。

(3) 今後の改善点について

この取組だけではないが、企画段階から、外国人や日本語支援者、公民館などたくさんの人を当事者として巻き込み、外国人が興味を持ち、参加しやすい講座や環境整備をした。多文化共生社会の重要性やイベントの意義を理解してもらうために継続的にPR活動をする、小中学校、地域団体、自治会、事業所とも連携を取り、普段から地道に活動をしていく事が、いざイベントを開催する際に協力してもらえたり多くの参加が期待できると思う。

<取組4>											
取組の名称		学習成果発表会									
取組の目標		日本語教室の学習成果について発信し、一般市民へ広く周知する。新たな学習者や日本語支援者の獲得をする。学習者の学習意欲を高める。今後の地域の日本語教育活動を充実させる。									
取組の内容		・日本語教室での学習成果を発表できる場をつくった。成果物の展示や松尾教室で作成した映像作品の上映、参加者を交えた意見交換等を行った。 ・文化庁委託事業の日本語教室だけでなく、地域にある既存の教室や国際交流推進協会などと協力して実行委員会を組織し、企画会議を数回実施して、発表内容も含め準備をした。 ・中国語教室や外国出身者が主宰するダンス教室等、日頃は日本語教室とつながりの薄い国際的な団体にも展示に協力してもらい、新たな参加者を確保するとともに、日本語教室関係者との交流、情報交換の機会とした。 ・次年度も継続して開催できるよう、組織づくりを進める。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		日本語教室の存在や重要性を地域に発信する機会となる。また新しい支援者や学習者の確保にもつながり、日本語教育活性化の体制整備となる。									
取組による日本語能力の向上		自己表現のための日本語力の習得									
参加対象者		日本語教室参加者とその友人・家族・勤務先の方、一般市民 等					参加者数 (内 外国人数)		40人(19人)		
広報及び募集方法		・チラシ設置(市内地区公民館・図書館など公共施設・日本語教室・市内小中学校など)、学習者と支援者へチラシ送付 ・市ホームページ、フェイスブックへの掲載 ・新聞各紙、中日新聞、信濃毎日新聞、南信州新聞へのプレスリリース ・いいだCATV、エフエム飯田、ミニコミ誌、週刊いいだへの掲載依頼									
開催時間数		総時間3時間			内訳 3時間 × 1回						
主な連携・協働先		松川町役場、飯田市役所男女共同参画課、飯田国際交流推進協会、竜丘日本語教室、羽場日本語教室、ポルトガル語を学ぶ会、AFS、JICA駒ヶ根、児童学習支援 えんびっクラブ									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	6		4	3					5	1	
	※該当する場合のみ										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要			講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成31年2月3日 (日) 13:00～16:00	3	飯田市役 所	40	にほんごたのしい に	1.デジタルフォトストーリーのDVD上映会と作成者によるインタ ビュー、原稿の作成やナレーションで難しかったところ、自分のふ るさどについてなど 2.市内の日本語教室や国際交流団体の活動紹介 3.グループに分かれて「ふるさと」について話しあい 4.豆まきや●×クイズなどのアトラクション 詳細はタイムテーブル参照			大澤 志那子	AFS、長坂菜摘子 竜丘日本語教室、西川和憲 えんびっクラブ、服部珠代 国際交流推進協会、林みどり JICA駒ヶ根、佐藤利春 日本語支援ボランティア9名、①下岡恭 子、②木下弘子、③山崎ルミ、④大蔵 隆、⑤善本勝、⑥菱田博之、⑦八木孝 子、⑧市瀬弘子、⑨向山敦子 公民館3名、①秦野高彦、②氏原理恵 子、③稲垣文子(事務局)	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

支援者には開場1時間半前に集合してもらい、展示物の掲示やチラシの配置、机やいすの配置、DVD上映の準備をしてもらった。会場の13時には徐々に参加者が集まり、久しぶりに会った支援者学習者が近況の話をしたり、また他の団体の代表者同士が自己紹介するなど、和やかな雰囲気であった。名前がわかるようネームシールに名前を書いてもらい参加者の胸あたりに貼ってもらった。最初はDVD上映会をした。合計10人となったため、3名、3名、4名分に分けて上映し、それぞれに作成者が壇に登り、ムービー作成で苦労したところや「ふるさと」について話してもらった。次に来ていただいた他の日本語教室や国際交流団体の活動紹介を代表者に発表していただいた。館内にも今日来られなかった団体の展示も含め掲示し、チラシも設置した。上映会後は、持ち寄っていただいた各国の料理を食べながらグループに分かれて付箋トークを行なった。自己紹介や所属団体の紹介から始まり、「ふるさと」について話し合った。終盤は豆まきの説明をした後、皆に豆を配り、支援者の赤鬼、青鬼が登場、豆まきをして大いに盛り上がった。最後は飯田市についてや参加者の国についての●×クイズを行ない、盛況のうちに閉会した。



(2) 目標の達成状況・成果

アンケートでは、「いろんな国のふるさとの想いを知れてよかった、意味のある発表会だと思った」、「それぞれ国や背景の違う人同士が出合い、その中で共通の目的や仲間を見つけて、支援者と楽しく学び過ぎていく姿を見て感銘を受けた」「飯田に長く住んで好きになるためには、飯田のどの部分が良かったのだろうと、興味がわいている」といった意見があり、当初の目標は達成できた。さらに今年は新たな企画としてこの地域で運営される日本語教室や外国籍児童の学習支援団体、松川町役場、JICAやAFSといった国際交流関係団体の活動を紹介する時間を持つことが出来た。それにより来場者も参加の目的が明確になり、出会いや交流がより意味のあるものとなった。この発表会がきっかけとなり、それぞれの団体の活動もより活発化されると思われる。

(3) 今後の改善点について

来年度は文化庁事業ではなくなるが、日本語教室をはじめ、学習成果発表会は継続して実施したいと考える。また今年の団体紹介が大変良かったので、来年も各団体の参加を募りたい。今年は、地域にある外国人コミュニティの団体にも声をかけたが都合で出られなかったため、フィリピン人、ブラジル人、中国人のコミュニティ団体にも参加いただきたい。さらには技能実習生の派遣会社や企業にも、声をかけていきたいと思う。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

これまでの日本語教室の活動から見てきた地域の実情と課題、ニーズなどに寄り添った日本語教室を開催し、外国人の自律促進と地域課題解消への一助とする。これまで築いてきた関係機関等との連携を強化するとともに、新たな連携先を発掘する。また、日本語支援者の育成に力を入れ、教室の自立を目指す。教室では、参加する学習者が、実践的な日本語を身につけることはもちろん、地域住民と共に日本文化や地域について学ぶことを通して、住民のひとりとしての自覚を持ち、社会へ踏み出していく足がかりとする。地域住民主体の“学習と交流の場”である公民館を拠点にした教室活動を展開することによって、外国人を含む地域住民が主体となる地域日本語教育推進のための体制整備を図る。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

【取組1】わいわいサロンⅡ 鼎教室と松尾教室においては、各教室のテーマを話し合うため開講前に支援ボランティアと日本語支援者を開催した。鼎教室のテーマは、外国人が飯田地域で豊かに幸せに暮らすために、飯田の歴史や伝統芸能、生活習慣や役所の手続き方法を学びながら日本語を学ぶこととした。松尾教室のテーマは「わたしのふるさと」とした。飯田の人に自分の故郷を知ってもらうために、ふるさとや家族や友人の写真と故郷の良いところ、知ってもらいたいところを紹介する、あるいは飯田に来て長く住んでいる外国人にとっては飯田は第2のふるさとであり、飯田のいいところ、飯田について思っていることについて原稿を書いてもらった。支援者は1人につき学習者2名で対応することが多く、学習者と故郷について傾聴したり正しい日本語でアドバイスをした。その後原稿を書いていくにあたり「てにをは」、イントネーション、文章の区切りなどのアドバイスをした。各講座の終盤にはそれぞれ文章を発表してもらった。原稿が出来上がったならレーションの練習をし、1人ずつ録音をした。作成したムービーは「学習成果発表会」で上映した。

【取組2】わいわいカフェでは、開始当初、フィリピン人、ブラジル人、中国人コミュニティそれぞれに対し、バイリンガルコーディネーターを中心にカフェ形式の日本語教室を実施する予定であったが、ニーズやタイミング、時間帯の都合によりフィリピン人コミュニティのみの実施となった。参加者平均6名、支援者は3名が12人の交替で実施した。1回2時間の合計16回32時間という集中的な日本語講座を実施し、上級から中級レベルの学習者たちの日本語力が大幅にアップした。

【取組3】丸山〇〇(まるまる)プロジェクトは、外国人が多く住む丸山地区の日本人と外国人の主に親子同士の交流を促進するために企画された。昨年度「丘の上教室」で募集したボランティアの活動の場を提供することも目的のひとつである。丸山地区には、いくつものリソースがある事がわかった。丸山公民館にビザやパンを焼く手作りの石窯があり、地区内に飯田の伝統工芸である水引の会社はいくつもある。また大平宿という古い宿場町の保存区もあるため、そのリソースを活かしたイベントを企画した。丸山石窯部のみなさんと、水引会社の田中宗吉商店、丸山地区の日本語ボランティアに企画から参加してもらい、「どきどき！親子教室」としてイベントを企画した。第1弾として丸山公民館で石窯ビザと水引作品づくり、第2弾は大平宿で1泊2日の宿泊体験とした。第1弾はブラジル人親子や中国人親子の参加があり、ゲームや水引で作品作りをしたり、ビザやフオカッチャを食べながら、地元の人と外国人との交流ができた。第2弾は下見と数回の企画会議を行なったが、当日悪天候のため、大平宿まで行く山道が通行不能になる恐れがあったため中止した。

【取組4】学習成果発表会は、外国人日本人合せて40名の参加があり、フォトムービーも今年は10作品と多く、国もフィリピン、中国、ブラジル、ベトナム、日本とあり見応えのある上映会となった。作成者からの感想では、「日本語を学び自分について日本語で話せることが嬉しい」と喜びを伝えていたことに、参加者も感銘を受けていた。また飯田で幸せに暮らしていることを話してもらえたことは、支援者にとっても嬉しく思ったことだろう。その後の団体紹介においては、日本語教室や学習支援団体は学習者や支援者の募集、JICA駒ヶ根では協力隊員の募集、AFSではホストファミリーの募集なども含めた活動紹介をしてもらったことで、それぞれの参加者にとっても目的をもった参加となり、意義あるものとなった。その後の交流会では、学習者、支援者、他団体が交流できるようなグループ分けをし、自己紹介、自分の故郷について、付箋トークをした。事業後書かれた付箋を読むとより具体的な話や飯田の良いところ、ふるさとのいいところが書かれていた。持寄りの料理はブラジルの方のケーキや、小籠包のような食べ物、スナック菓子、中国の水餃子、日本のお菓子和り、それも楽しみのひとつであった。その後豆まきでは支援者が赤鬼、青鬼となり豆まきをした。最後は参加国の国旗や、言語についての●×クイズで、最後まで残った人に文具の賞品が渡された。終了後も、参加者同士の交流が続き、今後の各団体の活動につながっていくと思われる。

(3) 地域との関係者との連携による効果、成果 等

【取組1】わいわいサロンⅡ 鼎教室では、飯田地域の文化や生活習慣を学ぶというテーマに沿って、飯田の伝統芸能である人形浄瑠璃の今田人形座様、伝統工芸である水引の飯田水引協同組合様、役所での手続きの仕方を学ぶため飯田市役所の市民課の職員、鼎公民館で絵手紙講座をしている鈴木先生、研修旅行では飯田市の山間地域である遠山郷へ出掛け、飯田市観光協会、遠山郷観光協会、上村まつり伝承館、龍淵寺の協力を得て活動を実施した。

【取組3】丸山〇〇プロジェクトでは、丸山公民館を中心に据え、第1弾では地区の有志住民で結成された丸山石窯部の皆さん、水引の田中宗吉商店様の協力を得て実施した。第2弾はあいにく中止となったが、大平宿を維持管理している南信州観光公社の協力を得た。

【取組4】学習成果発表会では、市内の日本語教室や国際交流団体の活動紹介の展示や、代表者に活動を紹介してもらった時間を設け、学習者や各団体の活動者との交流を図ることが出来た。民間団体だけでなく、飯田市男女共同参画課、松川町役場の生涯学習課、飯田市上村公民館主事の参加もあった。これにより多文化共生という同じ目的を持った団体の関係者同士が繋がりあい、情報交換することで、今後の多文化共生における活動がより広く展開されることを期待できる。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

取組1の鼎教室、松尾教室の開講に先立ち、また取組3の丸山〇〇プロジェクトのイベント前に、多言語(日本語、ポルトガル語、中国語、英語)のチラシを1500部、飯田市のホームページの講座案内、新聞3紙(中日新聞、信濃毎日新聞、南信州新聞)、飯田ケーブルテレビ、エフエム飯田、さらにはSNSを媒介として、飯田下伊那地域に幅広く周知した。

取組1の鼎教室初日にはシニア世代向け季刊誌「信州りらく」の記者が、日本語支援者ボランティア取材し、日本語支援を生きがいとする日本語支援者をクローズアップした記事が掲載された。

取組3の丸山〇〇プロジェクトには、中日新聞の取材があり、記事が後日掲載された。

取組4の学習成果発表会においても、多言語チラシ1500部、飯田市のホームページ、新聞3紙、飯田ケーブルテレビ、エフエム飯田、SNS、ミニコミ誌、週間いいだ、で告知し、南信州新聞の記者の取材を受けた。

(5) 改善点、今後の課題について

わいわいサロン鼎教室、松尾教室については、学習者は毎回10名を超え、支援ボランティアとスタッフを含めると20名ほどの参加があった。毎回活気あふれる楽しい講座を行うことが出来た。しかし支援者が学習者に対し人数が少なく、固定化しており、支援者自身もスキルアップを望んでいる。来年度は、新しい支援者の確保と既存の支援者のスキルアップのための研修を実施する必要がある。

告知については、チラシを市役所の外国人相談窓口はじめ関連部署、市内小中学校、幼稚園保育園、図書館などの教育施設、各地区公民館などに配付したが、目立った反応がなかった。SNSや飯田市のホームページへの掲載もしたが、新規の反応は見られなかった。外国人コミュニティのリーダー的存在の人に声掛けするなどして在住外国人にもアピールしたが、決まった参加者が多く、新しい参加者もこれまでの参加者の友人や知り合いが多かった。チラシの配布先や声をかける対象を広げ、媒体の検討をする必要があると思った。

飯田市男女共同参画課、飯田国際交流推進協会、長野県国際課、長野県国際化協会、その他飯田市内の外国人団体や地域の企業団体と連携をとって、活動の場、参加者の輪をもっと広げていきたい。

また日本語教室が認知されつつあり、地域に定着してきているため、期間限定ではなく通年で日本語教室が実施できるような体制づくりを目指す。

(6) その他参考資料

1. チラシ【取組1】わいわいサロン鼎教室・わいわいサロン松尾教室

【取組3】丸山〇〇プロジェクト・どきどき！親子教室第1弾・第2弾

【取組4】学習成果発表会「にほんごたのしいに